

平成四年一月三日（金）

郷土研究会資料

第一八八回 史跡めぐり資料

下谷七福神を訪ねて

第188回 史跡めぐり資料

下谷七福神を訪ねて

と き 平成4年1月3日(金)

集 合 越谷駅東口前 午前9時50分

コース 越谷駅

↓  
三ノ輪駅

…… 浄閑寺

↓  
寿永寺 (布袋尊)

…… 一葉記念館

↓  
正宝院 (恵比寿)

…… 飛不動

…… 大照寺(仏足石)

↓  
弁天院 (弁財天)

…… 小野照崎神社

↓  
法昌寺 (毘沙門天)

↓  
英信寺 (大黒天)

↓  
真源寺 (福祿寿)

…… 入谷朝顔市

↓  
元三島神社 (寿老人)

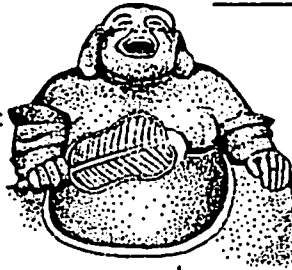
…… 根岸の里・御隠殿跡・菰塚

案内者 理事 山田 政信

主 催 越谷市郷土研究会

# のご案内

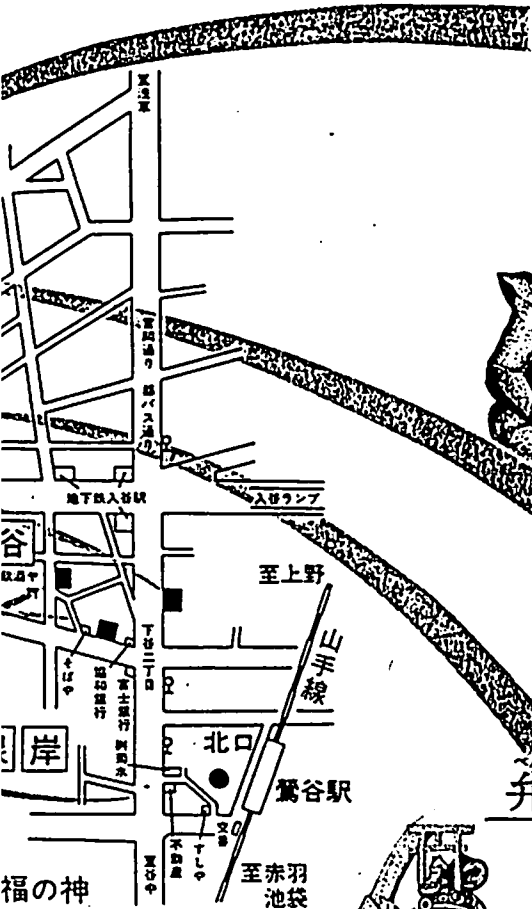
布袋尊……清廉度量の神



当寺は正覚山得生院寿永寺と号す。通称は赤門寺である。寛永七年（一六三〇年）の創建で開基は得生院殿寿永法尼と称し、徳川二代将軍秀忠公の菩提を葬うためにこの地に庵室を営み、専修念仏し給い、現在に至る迄法灯が続いている。

徳川中期寛延年間に、当山七世真如律院菩薩敬首和上は、動物愛護供養の念厚く、そのために、放生会（ほうじょうえ）というお経を発願し、又弥勒菩薩の化身といわれる布袋尊を崇敬し庶民の幸福を願った。

## 寿永寺



恵比寿……敬愛富財の神



商売繁昌の守り神として有名で、笑をたたえ、鯛をかかえたお姿は、古くより庶民の神様として、愛され親しまれています。

ご縁日は毎年十月十日で、この日には境内を中心として「菊まつり」も開かれます。

この菊の日にお参りすると、恵比寿様が、特別によく願いを、きいて下さる、といわれています。

当寺では縁日以外の日にも「福笹、福銭、宝運守」など、縁起のよいお守りを授与致しております。

創建享祿三年（一五三〇）

## 正宝院飛不動

弁財天……芸道富有の神



備中松山城主水谷伊勢守勝隆は寛永初年（一六二四年）不忍池に弁財天を建立すると同時にその下屋敷であった水の谷の邸内の池にも弁財天をまつり姉妹弁財天として西方の不忍を夕日、東方の水の谷を朝日弁財天と称した。弁財天は芸道富有結縁を授ける神として知られる。

## 弁天院

福の神

## 法昌寺

毘沙門天は、仏法をお護りする水神で、智力に勝れていることから、多聞天とも呼ばれております。

当山には創建（慶安元年）の昔よ



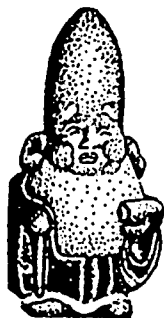
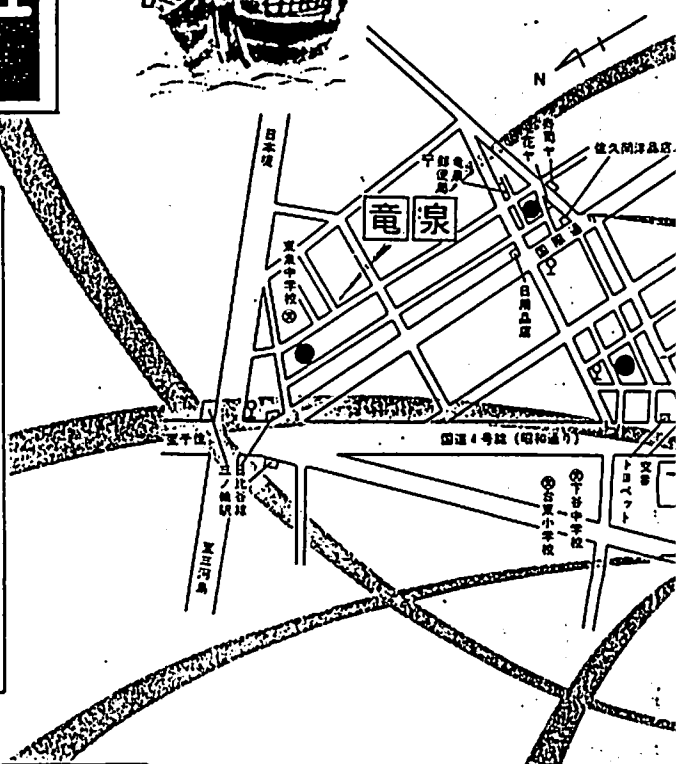
じろ じん  
**寿老神**……延命長寿の神

寿老神は延命長寿の神で中国道教の神、老子の化身の神ともいわれています。寿老神は杖を手にし、杖に結びつけられた軸物は人命の長寿をしるした巻物といわれ伴っている鹿は長寿をつかさどる神使とされています。元三島神社は弘安の役の折勇将河野通有、四国大山祇神社に必勝祈願 出陣をなし、神恩加護の下武功赫赫として帰陣したところ夢の中に御告げを得て大山祇神を武蔵国は上野山中に鎮座中したことに始まったと伝わる。

**元三島神社**

- 年中行事 元三島神社
- 初詣／一月一日～七日
- 七福神詣／一月中
- 例大祭／五月十四日・十五日
- 大歳／八月十五日・十六日
- 前分祭／二月部分の日

**下谷七福社**



よく じろ  
**福禄寿**……人望福德の神

福禄寿は、宗の嘉祐の頃(一〇五六)の道士仙人で南極星の化身であると云われております。その姿は短身、長頭、多髪で常に杖に経巻を結び鶴を伴っております。俗に福禄神と称せられ三徳具備の相をあらわし古来人望福德の神として崇められている。入谷鬼子母神には江戸時代或は明治初期の作と称せられ、八〇六年の絵画 大津絵などが保管されております。

**入谷鬼子母神**

尚、毎年七月六・七・八日三日間当山を中心に朝顔市が盛大に行われております。

さん たい じん  
**大黒天**……有福蓄財の神

古くから坂本大黒堂の英信寺と云われた当山に御安置されている弘法大師御作と伝えられる三面大黒天は出世、開運、商売繁昌等福をまねき財宝をおさづけ下さる御利益の篤い御尊体で右に弁財天、左に毘沙門天の三ツの御顔をもち大黒様です。オンマカキヤライソワカ、と、となえて福をお授けいただきます。大黒天の日は、甲子(キノエネ)の日。

**英信寺**



び しゃ じん  
**毘沙門天**……勇



眼と伝わる靈験あらたかな御尊像を奉安し、近在の信仰を集めてまいりました。毘沙門天は、人生に勝利する、必勝祈願の軍神です。

◆ 一葉記念館

二階が展示室になっていて、「たけくらべ」、「にぎりえ」の毛筆原稿、師の半井桃水あての書簡、竜泉寺町に小店を開いた時の仕入帳などが陳列されている。また一葉が住んでいた頃の竜泉寺町の家並の模型や、二軒長屋であった一葉の旧宅の模型も展示されている。

◆ 飛不動

江戸時代以前からここにある古刹である。昔住職が大峰山に本尊を安置して修行をしていたところ、一夜にして本尊が飛び帰ったという。以来、飛不動の名がついた。今では空の旅の安全を願う「飛行お守り」で人気がある。

◆ 大照寺の仏足石

都内では数少ないといわれる仏足石がある。高さ一・六メートルの根府川石に、仏足がほぼ完全な形を残している貴重な存在である。

◆ 小野照崎神社

平安期の学者歌人の小野篁を祭神とし、境内は狭いながら樹々が繁っている。土地の人から「小野照さん」と親しまれている。篁が上野の国司の任をおはり、帰路の途中、忍ヶ岡にさしかかり、風趣を賞で、岡の突端に小祠を建てたのがはじめて、「照崎」はその突端の称からきている。篁は「足利学校」の創始者ともいわれている。寛永寺創建のため現在地に移された。

社殿左脇には、文政十一年に富士山の溶岩で築造された富士塚がある。六月三十日、七月一日の浅間社大祭には山開きが行われ、この富士塚に登ることができる。

#### ◆ 入谷朝顔市

御徒町に住んでいた大番組谷七左衛門が、朝顔を愛してその変種を作った。人々は「朝顔屋敷」と呼んで見物にあつまつた。七左衛門から種を分けてもらい、下谷から入谷にかけて空地で栽培がはじめられ、「下谷朝顔」として江戸名物のひとつになった。

明治の初期に復活、寺の境内に鉢植で出たことから人気を集めたが、明治末期から大正にかけて再びとだえたが、昭和二十五年に復活、もう真源寺しか空地がなかつたので、その境内を中心に開かれた。

#### ◆ 根岸の里

「根岸」とは上野の崖下で、その台地の根の岸という意。古くは千足池があたりまで広がっていたことを物語る。文政十二年江戸市中の大火のあと、日本橋・京橋・芝の大店の別宅が多く造られ、後文人達の交流が盛んにおこなわれた地である。

荒川区境に江戸時代、梅で知られた梅屋敷があり、鶯の名所として知られ、鶯の鳴き合せが盛んに行なわれた。寛永元年（一八四八）に建てた「初音の里鶯の記」とある鶯塚の碑がある。（現在は個人の私有地の中にある。）

#### ◆ 御隠殿跡

輪王寺宮の憩いの館、御隠殿のあったところである。御隠殿は上野戦争で焼失し、その大部分は現在鉄道の敷地になり往時を偲ぶものはなにもない。